

セ タガヤ ボ ネ ネットワーク



SETAGAYA VOLUNTEER NETWORK

世田谷発！ ボランティア生活発見マガジン
<https://www.otagaisama.or.jp/>

2021.6 No.206

今月のトピック

特集●

ルポライター 杉山春さん特別講演会

子どもたちの命を守るには - 虐待事件取材して

まちの市民力！ ● IBASHO

キラリ世田谷人！ ● 温井 克子さん



イラストレーション●小針 麻記子

絵を描いています。世田谷に住み始めてから、絵を描くようになりました。

6/8～6/13 駒沢の地域サロン「オアシス」で、「惑星のかげら展」をします。

Instagram: @1981kobari

●わたしの世田谷

世田谷の木が好きです。ベビーカーに乗って見ていた世田谷、覚えていない。色々な思い出と、生かしてくれた、世田谷。大好きです。

ルポライター 杉山春さん特別講演会

子どもたちの命を守るには - 虐待事件取材して

今年2月6日、せたがやチャイルドラインはルポライターの杉山春さんをお招きし、講演会を開催しました。昨年春に予定していましたがコロナ禍で延期せざるを得ず、約1年越しの開催となりました。Zoom利用と、インターネット環境が難しい方のための視聴会場も設置し、65名の参加をいただきました。講演会の内容をお伝えします。

子ども達の命を守るには
虐待事件を取材して



2021年2月6日
せたがやチャイルドライン
杉山春（ルポライター）

2000年

愛知県武豊町の事件

児童虐待について最初に取材したのは、2000年12月、愛知県武豊町にある大手製鉄会社の子会社の社宅で、段ボール箱の中で餓死した3歳の女の子が発見された事件でした。両親は当時21歳。この半月前に児童虐待防止法が施行されたことから非常に注目されました。著書では女の子を真奈、母を雅美、父を智則と名付けました。雅美の母も10代で出産しており、父はギャンブル依存でした。母が家を出て他の男性の子を妊娠、帰ってきてまた出ていきます。雅美はバブル期に飢えを体験し、小学生の頃から弟の面倒を見ていました。中学卒業後、定時制高校に入り、昼間は工場で働き、その頃に性被害に遭います。仕事も学校もやめ、暴走族に顔を出すようになります。

智則は幼い頃、両親に連れられ

飯場を転々とします。両親の離婚後は母と生活し、小学生時代に母が再婚。姓が変わったことでいじめを受けますが、親や教師に助けを求めることはなく、テレビゲームに没頭してやり過ごしていました。

二人は高校生年齢で出会います。最初の妊娠はおろし、二度目の妊娠で生んだのが真奈です。智則が高校生の時に生まれ、就職時は生後4〜5か月。研修が終わった正社員になった直後、智則は真奈を揺らし、頭に怪我を負わせ真奈は入院します。真奈の発達が遅れていると気付いたときに智則は真奈への関心を失い、仕事に没頭します。姑には子育てがなっていないと言われ、雅美は孤立し、布団の訪問販売を断れなくなり、買い物依存が起きていきます。保健師の訪問でも子どもを隠すようになり、事件に至りました。

当時は児童相談所が家族をアセスメントする発想を持たず、診察

■杉山春さん：東京生まれ。ルポライター。著書は『満州女塾』（新潮社）、『ネグレクト 育児放棄 真奈ちゃんのはなぜ死んだか』（小学館文庫）、『家族幻想「ひきこもり」から問う』（ちくま新書）、『自死は、向き合える 遺族を支える、社会で防ぐ』（岩波ブックレット）など多数。現在、公営団地で親子の居場所作りにも取り組んでいる。



Zoom で講演中の杉山さん

した小児科医もネグレクトの実際を知りません。保健師は会えない不安を同僚に話せず、同僚も踏み込めませんでした。真奈の入院時には助けた近隣住民も、心配しながらも自分が立ち入ると嫌がるのではないかと考えました。

智則は裁判で、真奈が餓死していく中で妻子に関心を持たなかったのは何故かと問われ、夫は会社からお金を取ってくる、妻は子育

てと家事をするものだと思っていた、と話しています。

取材当初、虐待のことをほとんど知りませんでした。法廷に通い、両親と拘置所で会ったり文通をしながら、虐待が起きていく仕組みや、困難の中で育つということ很简单に自分と重ねてはいけないうことを学びました。

2010年大阪市西区の事件

2010年7月、3歳の女の子と1歳の男の子が風俗店の寮で亡くなっていました。50日間ごみ屋敷状態の部屋に放置されていました。

この子たちの母は、幼少期、両親が不仲になり、母親と暮らしますが、母親は恋人のところに行き、妹らと飼い犬と放置されます。小学1年生頃に父親に電話して迎えに来ます。その時、死んだ魚の目をしていたと父親は証言しています。その父親もご飯は与えます

が、仕事ばかりで、家に放置します。中学生になると夜間徘徊が始まり、家出があり、性被害に遭います。高校生年齢で少年院に入りましたが、その際の鑑別で解離性障害の疑いがあると言われていました。高校生を終えた後、地元の三重県四日市へ帰り、妊娠し結婚。地域の子育て支援を全て使い、夫の弁当を作り、姑と上手に付き合いい、父親との関係もよいという完璧な主婦時代がありますが、うまくいかなくなると浮気が始まり離婚。キャバクラ店・風俗店に行き、事件の5か月前には子育てができなくなっていました。母は離婚し子どもを連れて転々としているとき、児相の関わりを断り、児童扶養手当も受けません。繰り返し暴力を受けてきた女性はいよいよ支援に繋がれないということを教えてくれた事件です。裁判員裁判開始2年目頃で、殺人罪で懲役30年の判決でした。当時はまだ、暴力を受けた人のメンタルヘルスにつ

いてあまり知られていませんでした。

2014年

神奈川県厚木市の事件

2000年のアジア通貨危機前後に離婚が急増し、2008年のリーマンショック以降、女性が子どもを抱えて彷徨うなかで2010年の事件が起きます。そ



杉山さんの著書

の後もそうした事件が続いたことから、厚労省が居所不明児を洗い直し、2014年5月、神奈川県厚木市で男の子の白骨化した遺体が見つかりました。男の子は2007年頃に亡くなっており、死亡当時5歳でした。

2005年、3歳頃に母が家を出て行き、父一人の子育てが始まります。毎日コンビニのおにぎりと調理パンと500mlの飲み物を子どもに与えて仕事に行き、帰るとまた同じように与える。トラック運転手で、社員の20%しかもらえないA評価をもらう仕事ぶりでした。父は裁判でIQ69と出ており知的にグレーゾーンです。父のもう一つのハンディキャップとしては母親が精神疾患を持っていました。

この男性に一番最初の記憶は何歳かと尋ねると12歳と答え、1歳年下の妹に聞くと11歳と答えました。その時期に母親が精神疾患で入院し、家庭に祖母が入ってきた

ことで記憶が持てるようになります。傍らに人がいて会話ができないと記憶は定着しないということ専門家への取材で学びました。父は小さいときに三度のご飯を食べた記憶はありません。1番は殺人罪で懲役19年、2番は保護責任者遺棄致死罪で12年。ひどい親と強調することで、社会がしなければいけないものが何かが見え難くなると感じた事件でした。

2018年と2019年の事件

2018年に5歳の女の子が亡くなった目黒区の事件も、2019年に10歳の女の子が亡くなった野田市の事件も、行政が関わろうとするときに非常に遠距離を移動します。また、公的機関から見えなくなると約1か月で子どもが亡くなっています。

暴力をふるう男性の就労の不安定さにも共通点があります。2000年の事件では、父は仕事

に没頭して家族を無視しますが、2018・2019年の事件の男性たちは仕事に必死になることができません。社会から評価されたいとき、家庭で評価を得ようとする者となっていく。男性は家族をコントロールして、立派な家族を作らないではいけない恐怖心に捉えられていたのではないのでしょうか。そして、その大元には「家族をちゃんとしなければならぬ」という価値観があったのではないのでしょうか。

家族の責任を問うていくなかで：

戦後、産業化の中で近代家族が生まれ、家族単位の福祉が行われ、子育ては家族の責任とする社会の仕組みが完成していきます。そして、非正規就労が増えていきました。

1990年に国が児童相談所の虐待相談件数の統計を取り始め、児童福祉法では素早く親子分離で

きないとして2000年に児童虐待防止法が施行されました。翌年、DV防止法が施行され、家庭内暴力に警察権力が入りやすくなりました。一方、2006年の教育基本法改正で「父母その他の保護者は、子の教育について第一義的責任を有する」との文言が、2016年の児童福祉法改正で「児童の保護者は、児童を心身ともに健やかに育成することについて第一義的責任を負う」との文言が入ります。子どもが健康に育つかどうかは親の責任だと個人責任を強く言う。ちゃんと子育てしていないと警察に捕まるよ、という時代になっていともいえ、うまくいかなかったら社会が助けてくれると思えない。そうした状況が事件の背景にあるのではないのでしょうか。

また、2018年の事件では、母は男性から非常に強い支配とコントロールという暴力を受けています。暴力が渦巻くなか、子ども

を守るどころでなくなっていく精神状態の過酷さは、まだ社会に十分に理解されていないように思います。

どうやって共に生きていけるか

そうしたなかで、支援をする側こそ、自分自身の五感を信じて動けるか、相手を感じとれるかどうかが問われています。DVが起きる仕組みや児童虐待の背景について掘り所になる知識を持ち、人と共有すること、不安を共有できることも行動の契機となります。「あなたは、私は、いま何を考えている？」そうしたことを分かち合い、どうやって共に生きていけるかを考えていきたいと思っています。

（文責／せたがやチャイルドライン広報担当）

■イベントのご案内 P.11

せたがやチャイルドライン チャット事業報告会&ワークショップ
「子どもにどう関わったらいいいんだろう…」を考える

放課後は宝物 IBASHO



まちの 市民力!!

取材・市川 徹

●
街の中で地域やそこで暮らす
人たちと一緒に活動している
団体を紹介します



「IBASHO」は、「小4の壁」をきっかけに結成した弦巻小の保護者たちのネットワークです。メンバーの岡田陽子さん、久米朋子さんにお話を伺いました。

「小4の壁」とは、学童期である小学校3年生が終わって、子育てのステージが大きく変わる時期のこと。この時期に子どもたちの健やかな自立を育む環境をつくるため、地域・学校・行政と協力してできることを実践しています。

結成は2019年3月。そのきっかけは、子どもが学童を卒業して居場所がなくなったように感じたことでした。放課後の選択肢を増やしたいと考えたものの、行

政を動かすのは大変と気づき、同じ想いを抱える保護者たちで活動を始めました。

まずは、「どんな放課後が良いのだろう?」と話し合い、「放課後寺子屋」「商店街に秘密基地」「大人になった時に友達と思いきり遊んだ思い出を残してほしい」などの想いを共有しました。

近所にある駒沢はらっぱプレーパークの存在に気づいてからは毎週通うようになりました。ここで、遊ぶ学年も混ざって親同士もつながるようになり、雑談の中から生まれた活動がたくさんあります。その一つ、「松陰神社通りのみちあそび」(2020年12月6

日開催)は、区の外遊び推進員の協力を得て、子どもの声を聞いてみようという動きから実現したものです。大盛況となったこのイベントは、まちの中で子どもが遊ぶ風景を多くの人々と共有することが大きな目的でした。

放課後は少しのサポートがあれば地域のあたたかさに気づける時間でもあります。そうした気づきを促し、地域とつなぐコーディネート者の必要性も訴えています。現在では、さらに、子どもの声を聴く街づくりについて、行政に働きかけながら活動に取り組んでいます。

一人では「小4の壁」に向き合うのは大変でも、仲間となら何とかなる。「まず声にすること。仲間が増えて、まちや行政も受け止めてくれるはず」と言います。

「放課後は宝物」。日々の忙しさについ忘れてしまいがちですが、そんな言葉が印象に残りました。



ぬくぬくハウスオーナー
温井 克子さん
ぬくい かつこ

や せ た 人 が キラリ

世田谷を中心に活躍する
キラリと光る素敵なたを
ご紹介しします
取材●事務局

温井克子さんは多摩川沿いのご自宅の一部を地域共生の家として開放されています。戦時中に玉川で生まれ、現在に至るまで玉川から離れることなく生活をされてきた生粋の玉川っ子でもあります。そんな温井さんにお話を伺いました。

お話は、幼少期から。戦中・戦後の時代は、お父様が長年シベリアに抑留されていたため、お母様おひとりで温井さんや妹さん子を育てられる苦しい状況が続いたそうです。お母様の必死に子どもを守り育てる姿、また、隣近所や町会の方々に助けてもらった経験は、自然と福祉の道を志すきっかけになりました。

けになりました。幼いころの経験、母の姿、そして戦地の父から聞いた戦争への絶望感、今も変わらず心の中にあり、一本の筋となって流れています。温井さんはおっしゃいます。

短大卒業後に社会福祉士の資格を取得した後、品川で長く病院や認知症グループホームで福祉の仕事に力を注いできました。仕事から引退後の2014年、二子玉川100年懇話会に参加し出会った方々と意気投合。かねてより抱いていた「自宅を地域に開きたい」という思いをその方々と実現し、地域共生の家「ぬくぬくハウス」をオープンしました。

温井さんの原動力は、家族や隣近所のつながりを大切にする社会になってほしいという思いと、何事にもチャレンジすることを止め

ない姿勢。なんと精神保健福祉士の資格取得のために70代で4年制大学に入学し卒業されたとか。今後は、様々な問題を抱えていてもみんなが助け合い自立できるユニバーサルな社会を作っていきたいとのこと。温井さんの歩みはまだまだ止まりません。

余談ですが、取材のために、温井さんは当時の家族写真と戦地にいるお父様からのお手紙をご用意くださっていたのですが、額縁から家族写真を取り出したところ写真の裏に、その当時お母様が書かれたと思われる「遺書」と題された家族への思いが。貧しい状況下でも何としても子どもを育てていかなければ、というお母様の強い思いに思いがけない形で直接触れることができました。

※近日、2つ目の拠点「らくらくハウス」を玉川に新たにオープンします。今後、これまでぬくぬくハウスで行っていた活動はこちらで行います。

ご相談ください

個別のサポートを必要としている方、ご相談ください

世田谷ボランティア協会では、ボランティアの力を必要としている方と、ボランティアをおつなぎする橋渡しをしています。新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、人と会ったり、集まったりすることが難しい状況ではありますが、困りごとを抱えていたり、どこに連絡したら問題を解決できる

個別の学習支援を必要としている方、ご相談ください

世田谷ボランティア協会では、「発達障がいや学習障がいの傾向があったり、不登校の経験があり、学習の理解の面で苦労をしている」「勉強に向き合うことが苦手。学校の授業についていけない」などの相談を受け、小学生・高校生の個別の学習支援に取り組むボランティアをお探しして紹介しています。

のかわからないという方は、お電話でご相談ください。

電話でお話ししながら、どんなことができそうか、どんな解決方法がありそうか、一緒に考えます。

●問合せ／世田谷ボランティアセンター
TEL 5712・5101

現在は、新型コロナウイルス感染防止のため、オンラインでの学習支援にも対応しています。勉強への気持ちや、学ぶポイントなど、本人のペースや特徴を尊重してやっていきます。お気軽にご相談ください。

●問合せ／世田谷ボランティアセンター 担当 高居・青木
TEL 5712・5101
takai@otagaisana.or.jp

ボランティア求む

東 1日店長、募集!

NPO法人コミュニティ・ネットワーク・ウェーブ(オアシス)では世田谷区駒沢の元お寿司屋さんの居抜き店舗にて地域サロン運営をしております。空いている時間を有効活用していきたいと考えています。1日店長としてお店をやってみませんか。詳細などお気軽にお問い合わせください。

●日時／金曜日・日曜日

東 食事作りをして下さる方募集

昨年7月より駒沢のお寿司屋さんの居抜き店舗にて地域サロンの活動をしています。手作りのランチ、お弁当作りに協力して頂ける方を募集しております。無償ボランティアさんの募集ですがご希望の方には食事を代金半額で提供しております。お気軽にお声掛けください。よろしくお願いします。

●日時／月・木 10時〜12時頃
●場所／オアシス(世田谷区駒沢)

●場所／オアシス(世田谷区駒沢 2・21・7)

●交通／駒沢大学駅徒歩10分

●問合せ／NPO法人コミュニティ・ネットワーク・ウェーブ 担当 一宮
070・5457・7781
wave@ngo-npo.org
http://www.ngo-npo.org/wave/

●交通／駒沢大学駅徒歩10分

●条件／不定期でも月1回でも可

●問合せ／NPO法人コミュニティ・ネットワーク・ウェーブ 担当 一宮
070・5457・7781
wave@ngo-npo.org
http://www.ngo-npo.org/wave/

●交通／駒沢大学駅徒歩10分



狛江市内の小・中学生に対しての 学習支援ボランティア募集

狛江市内にお住いで、生活・学習支援が必要だと思われる世帯の小・中学生に、規則正しい生活習慣をつけることを目指して、「子どもの学習支援事業」を実施します。支援を必要としている家庭のお子さんに對して、相談員がボランティアさんをサポートしながら進めていきます。相談員は子どもだけでなく、保護者の相談にもものりながら、ボランティアさんとともにその家庭に寄り添いながら進めていきます。

京 ライブラリー管理ボランティア募集

コミュニティカフェなつこのには全て、地域皆様方などからの寄贈本で、小説、ムック本、絵本等々蔵書が千冊以上のライブラリーがあり、その整理や本の紹介に興味のある方を募集しております。司書の資格を活かしてボランティアしてみたい、図書館で勤めていたけれど、今は子どもが小さいので、子どもと一緒に本に関わりたい等々、本が大好きな方をお待ちしております詳細はお問い合わせください。

京 懐かしの名画会運営ボランティア募集

コミュニティカフェなつこのでは、毎月1回第4月曜日の午後には懐かしの名画会を開催しています。1970年以前に作られた名作を上映して64回を迎えました。当日の設営(暗幕を貼る作業)や上映作品の選択などにお手伝いいただける方を募集いたします。日時/毎月第4月曜日12時半~16時半

●場所/コミュニティカフェなつこの(世田谷区南烏山6・12号棟1階)

有償スタッフ募集

小京東 赤ちゃんのいるご家庭を訪問し、 育児・家事支援をしてくださる方募集

世田谷区内において、赤ちゃんのいるご家庭(出産後1年未満)を訪問し、お母さんと一緒に赤ちゃんのお世話や家事のお手伝い、外出の付き添いなどを行ってくださる方を探しています。

体調不良や育児への不安など、産後の大変な時期に力を貸してくださる方がいることは、大きな支えになります。日時や内容はご家庭によって異なるため、詳しくはお気軽にお問い合わせください。

・12 コーシャハイム千歳烏山12号棟1階

●交通/千歳烏山駅徒歩5分

●条件/交通費支給(上限千円まで)

●問合せ/コミュニティカフェなつこの 担当 鎌田

TEL 5969・8457

info@nanatsunoko.com
https://nanatsunoko.com/

日時/月・土曜日、9時~17時(2時間程度。ご家庭ごとで異なります。)

●場所/世田谷区内のご家庭

●交通/小田急線・京王線・田園都市線など

●条件/子育て経験や保育士・看護師等の資格をお持ちの方。有償、交通費支給、研修あり

●問合せ/NPO法人日本子どもソーシャルワーク協会担当水野

TEL 5727・21133

http://www.jcsw.jp/

講座・その他・募集

小

代田ビューロー近所カフェ
『折り紙を楽しんで、
ボランティア活動にもつなげよう』

色とりどりの折り紙を折って覚えてみんなで楽しみましょう。自分で楽しんだり、ボランティア活動にもつなげていく予定です。

●日時／6月19日（土）13時～16時

●場所／代田ボランティアビューロー

●交通／世田谷代田駅徒歩すぐ

●参加費／100円

●条件／マスク着用

小

もつと語ろう不登校 Part 257

これまで28年にわたって、さまざまな方々の分かち合いの場となってきました。「自分だけではなかったんだ」と知るだけで心が軽くなります。初めての方も、お誘い合わせの上、どうぞお気軽にご参加ください。

●日時／6月5日（土）14時～

●場所／NPOフリースクール僕

●申込み／お電話かメールで。メールの場合は件名に、「ご近所

カフェ折り紙参加希望」とし、本文にお名前と電話番号を明記して下さい。

●問合せ／代田ボランティアビューロー

TEL 3419・4545

dalabor@otagisama.or.jp

んち（代田4・32・17）またはZOOM会議にて

●交通／梅ヶ丘駅徒歩10分

●条件／事前申し込み制

●問合せ／世田谷こどもいのちのネットワーク第3分科会「もつと語ろう不登校」担当 高橋

090・3905・8124

tsbtou@yahoo.co.jp

東 烏山地域失語症会話パートナー養成講座説明会

失語症会話パートナーとは、失語症のある方とスムーズにコミュニケーションができるように支援する人のことです。講座を通して

コミュニケーションをとる方法を学び、失語症のある方へのサポートになりませんか。講座の申し込み受付は説明会にて行います。

まずは説明会にご参加ください。●日時／7月1日（木）15時15分～16時15分

●場所／ほととからすやま（南烏山1・13・16）

東 バザー提供品受け取り一時休止のご案内

いつもバザー品のご提供にご協力いただき、ありがとうございます。現在、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、バザーを休止しております。そのため、バザーの物品提供の受付（持ち込み及び宅急便などの郵送）を当面の間、休止とさせていただきます。ご理解ご協力のほど、よろしく願いします。

※次回のバザーの開催は未定です。再開が決まり次第お知らせいたします。

●問合せ／世田谷ボランティア協会

TEL 5712・5101

●交通／芦花公園駅徒歩2分

●募集人数／先着6名

●条件／対象者は区内在住で、講習5回（8月5日、10月7日、11月4日、12月2日、1月6日

すべて13時半から16時）の全日程に参加でき、修了後にボランティア活動ができる方

●問合せ／世田谷区立保健センター 専門相談課

担当 安保・小金丸

TEL 6265・7546

東 せたがやチャイルドライン チャット事業報告会&ワークショップ 「子どもはどう関わりたいんだろう…」を考える

せたがやチャイルドラインでは、1998年から電話で子どもの声を聴いてきました。

近年、子どもたちにもスマホやタブレットなどの利用が広がり、子どもたちの身近なツールとなっています。こうした状況を踏まえ、電話での活動に加え、2020年9月からチャットでも子どもの声を聴く活動を開始しました。

このたび報告会という形で、22年間の電話での活動や、新たに開始したチャットでの活動の中で見えてきた子どもたちの姿を皆様にお伝えし、子どもを取り巻くおとなに何ができるのかを考える機会を持てればと思います。

また、昨年度に開催した講演会の中で、子どもとのかかわり方に悩むおとなの姿も見えてきました。報告会と同時に、子どもと関わるおとな自身が体験的に学ぶ機会として、「NPO法人きゅく」代表の森郁子さんをお招きしてワークショップを開催します。たまたかない・怒鳴らない子育て、子

もへのかかわり方について一緒に学んでみませんか。詳細は世田谷ボランティア協会のホームページをご覧ください。

●日時／7月4日(日) 12時～15時
①第一部 チャット事業報告会
(Zoom) 12時～12時50分
②第二部 ワークショップ(集合形式) 13時～15時

●場所／①Zoomと東京都大学
学二子玉川夢キャンパス
②東京都大学二子玉川夢キャンパス

●交通／二子玉川駅徒歩1分
●募集人数／報告会のみ50名
●報告会+ワークショップ24名
●条件／子どもの問題に関心のある方、子育て中の方

●問合せ／せたがやチャイルドライン 担当 樺井・青木
TEL 5712・5101
childline@otagaissama.or.jp
<https://www.otagaissama.or.jp/>

せたがやチャイルドライン寄付・ご支援のお願い 子どもをささえる活動をささえてください

①寄付・ご支援のお願い

せたがやチャイルドラインは、18歳までの子どもたちのための電話です。電話を受けるのは研修を受けたボランティアです。

通常はバザーや手づくり品の販売などで活動資金の一部を調達していますが、イベントの中止などにより、活動資金を確保することが難しくなっています。子どもをささえる活動をささえるために、寄付のご協力をお願いいたします。

●郵便振替口座にお願いします。

●口座番号／

00150・8・279963

●加入者名／社会福祉法人世田谷ボランティア協会

※この口座への寄付は所得税の寄付金控除の対象にはなりません。

通信欄に「寄付申込書せたがやチャイルドライン」とご記入ください。

②講義集の販売

受け手講座の内容をまとめた講義集「子どもに育ててもらったおとなたち」をメールでご注文いただけます。この講義集は受け手養成講座のテキストでもあり、せたがやチャイルドラインが大切にしている「子どもへのまなざし」がぎゅっと一冊にまとめられています。受け手講座に関心のある方や、子どもとのかかわりに悩む大人の方にもぜひ読んでいただきたい内容となっています。

●価格／1冊1000円(税込)。お支払いは後日お振込みとなります。(別途送料)

●注文方法／郵送ご希望の方は、「お名前・送付先住所・電話番号・冊数」をご記入のうえ、メールでお申し込みください。

●問合せ／せたがやチャイルドライン

TEL 5712・5101
childline@otagaissama.or.jp

世田谷ボランティア協会の活動・支援拠点

●「市民が主役」のボランティア活動の拠点●

- 世田谷ボランティアセンター 〒154-0002 下馬2-20-14 TEL (5712)5101 FAX (3410)3811
- 梅丘ボランティアビューロー 〒154-0022 梅丘1-8-9 TEL (3420)2520 FAX (3706)2854
- 代田ボランティアビューロー 〒155-0033 代田2-20-6 TEL (3419)4545 FAX (3412)3210
- 玉川ボランティアビューロー 〒158-0094 玉川2-1-15 TEL (3707)3528 FAX (3708)3058
- 砧ボランティアビューロー準備室 〒157-0066 成城6-3-10 TEL (6411)4007 FAX (6411)5888

●いのちを大切にすところ「ふらっと」&「with」です●

- ケアセンター「ふらっと」 〒154-0002 下馬2-20-14 TEL (5712)5105 FAX (3410)
- ケアセンター「with」 〒154-0002 下馬3-22-13サザン三軒茶屋1F TEL (6805)4715 FAX (6805)4718

●くらしを紡ぎ、わかちあう「結」と「連」●

- ケア相談センター結(ゆい) 〒154-0002 下馬3-22-13サザン三軒茶屋2F TEL (5433)2830 FAX (6383)2156
- ケアステーション連(れん) 〒154-0002 下馬3-22-13サザン三軒茶屋2F TEL (6805)4716 FAX (6805)4718

●障がいにとまなう「困った！」を話せるところ●

- 地域障害者相談支援センター ぽーとせたがや 〒154-0002 下馬3-22-13サザン三軒茶屋2F TEL (6804)0405

●でんわだから、はなせるネ! 18さいまでのこどもせんようでんわ●

- せたがやチャイルドライン こどもせんようでんわ TEL (3412)4747 0120-99-7777(フリーダイヤル)
*事務局は世田谷ボランティアセンターにあります

拠点は今… 今月のおススメ!

◆センター&ビューローより

雨が鬱陶しい季節の中、紫陽花も見ごろになりました。今年は災害級の大雨が降らないようにと願う日々です。大雨が降る前に自宅の側溝をきれいにして、水害に備えてくださいね。災害担当より。

◆ふらっと& withより

街を歩くとネズミモチの木の甘い香りが辺りを包み込んでいます。九州はGW開けに例年よりも早い梅雨入りだそうです。ジメジメとした気分を吹き飛ばすような楽しみを見つける6月にしたいと思います。

◆結・連より

介助を必要としている人がいます! 世田谷を走り回っています。ヘルパー募集継続中です!

◆チャイルドラインより

7/3(土)にオンラインチャット報告会と「子どもにどう関わったらいいんだろう…」を考えるワークショップを開きます。詳しくはP11をご覧ください。ご参加お待ちしております。

■今年の梅雨は長引く可能性があるとのこと
で、上記の災害担当からもありますが、長雨や
大雨が原因で災害が起らないこと祈るばかり
です。体調管理にも気をつけて過ごしていきま
しょう。
■気が付いたらあつという間の6月。一年の
半分が終わってしまいます。大人になるとあつ
という間に時間が過ぎていくように感じるのは
トキメキがなくなったからとテレビでやってま
した。(こ)

●発行
社会福祉法人
世田谷ボランティア協会
〒154-0002
世田谷区下馬2-20-14
TEL 03-5712-5101
FAX 03-3410-3811
●E-MAIL
setabora@otagaisama.or.jp
●ホームページ
<https://www.otagaisama.or.jp/>
●発行人
横山 康博

